日刊 動労千葉

82, 12, 27

No. 1230

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一一八（動力車会館）

（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

一年間をふりかえって

各支部長に聞く その1

一九八二年は、動労千葉組合員はもとより、全国鉄労働者、否すべての労働者人民にとって激動の一年間でありました。

政府・自民党は、体制的危機を戦争政策でのりきるために、反対勢力を一掃し国内総動員体制をつくり上げるための攻撃を、とりわけ「国鉄」と「三里塚」に集中的に加えてきました。「三里塚」に対しては、石橋問題や「成田用水」のように、敵の全体重をかけた同盟破壊攻撃が加えられ、「国鉄」には乗車証改悪、現協々約改悪、新採ストップ、合理化推進をはじめとする「緊急十一項目」強行実施による国鉄労働運動解体攻撃が襲いかかりました。

重要なことは、この「三里塚」と「国鉄」をめぐる激突を通して日本階級闘争は確実に壮大な決起―激突へむかって動きはじめたということです。そして同じく重要なことは、この「三里塚―国鉄」の決戦的闘いの前進は、その最大最悪の敵対者＝革マル・動労「本部」革マル反動分子をして明白な敵の手先きとしての本性を全人民の前に一点のくもりもなくあばき尽したということであります。

われわれは、国鉄当局の攻撃により少なからぬ慣行・既得権を奪われたものの、動労千葉を先頭とした闘いは、ついに「五七・一一」において、国労二五万の決起を生み出し、「臨調・自民党＝国鉄当局・太田労政＝動労「本部」革マル」連合への反撃を開始しました。また「十・一一三里塚現地集会」の圧倒的成功は、政府・公団・権力・革マルの「成田用水」＝同盟分断・破壊攻撃をはね返し、反対同盟の組織強化と反戦・反核の砦としての強化・拡大をかちとりつつあります。

このように、この一年間は激動の嵐の中で、真に闘う者と卑屈な屈服・裏切り者、真に勝利する路線と敗北・転向・屈服の道、全労働者・人民の味方と敵をはっきりとしゅん別し、厳しくもしかし力強い勝利へむけて大きく前進した一年であったと言えると思います。

われわれは今、動労千葉分離独立とこの三年有余の闘いに絶対的正義性と勝利性をあらためて再確認するとともに、「反合・三里塚を闘う労働運動」路線にますます自信と確信を深め、敵の反動攻勢と対決し、動労「本部」革マル一掃・動労大改革にむけますます意気高く闘いを進めていく決意を固めています。

『日刊動労千葉』編集委員会は、この一年間の闘いを先頭で指導し闘いぬいた全支部執行委員長の「この一年間をふり返っての感想」を順不同掲載で紹介していきたいと思います。

どんなに厳しくとも　闘う以外に道はない

館山支部執行委員長　川名　泰

一九八二年は、まさに「ヤミ・カラ・国賊」キャンペーンからはじまりました。国鉄労働運動解体攻撃が「緊急11項目」の有無を云わせぬ強行実施として、新採ストップ、57・11ダイヤ改悪、検修・貨物合理化攻撃、パス廃止、現協改悪…と息もつかせぬ攻撃のまっただ中で、この六月に支部長をおおせつかりました。これら難問の山積する中で、職場集会等を開催し、職場生産点の組合員一人ひとりがどう受けとめどう闘ってゆくのか、真剣にとりくんできました。動労「本部」の「働こう運動」は、生活と権利を守るものではなく、むしろ奴隷となって働けという路線です。屈服することによっては、労働者の利益は守れません。あくまでも労働者として闘いぬく以外にないのです。57・11ダイヤ改悪、外勤の日勤化等、館山における合理化攻撃はいったんは押し返しましたが、これから更に強まると思います。検修下廻りをはじめとし、達一号改悪等・大合理化攻撃と対決し、どんなに厳しくとも、起って闘いぬく以外に道はないのだと思います。

来年は二歩前進しよう！

銚子支部執行委員長　宮崎　禎夫

今年もあますところあと数日で終ろうとしています。激動の八二年をかえりみますとき、非常に長く感じられました。それは、政府・自民党と国鉄当局が一体となり、マスコミをまきこみ、我々国鉄労働者「いじめ」をしてきました。連日にわたり新聞やテレビで「ヤミ・カラ」を宣伝し国民大衆と国鉄労働者の分断を狙ってきました。また春闘においては、ストなし春闘に終ってしまいました。仲裁々定はいまだに実施されず、政府・自民党のいいなりです。

「パス問題」「現協問題」など、国鉄当局は今までの労使関係を一方的に踏みにじる攻撃を強行してきています。

今年は一歩後退した感じですが、来年は二歩前進しよう。

【訂正】12月24日付『日刊』の号数が誤っていました。正しくは「第一二二八号」です。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！